

REST-wagon II e

取扱説明書

REST-wagon II eを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

REST-wagon II eの特長

■ブラッシュアップポイント

- 押し手ハンドルの位置を見直して、全高が低くなりました。
- 車載固定部品が標準装備になりました。

■これまでの基本機能も継承

- 簡単折りたたみ
- 無段階ティルティング機構+無段階背リクライニング機構
- 姿勢保持機能付
 - ・調節スリングシートによる背座調節
 - ・トランクサポートベルト、骨盤サポートベルト
 - ・座クッションはアンカーサポートと外転サポート付きのセミモールドクッション
- 広い荷物搭載スペース。
- 背高さ調節機構付き。
- 操作しやすい高さ調整式押し手ハンドルのダイヤルロック。
- 座面奥行き、フットサポート高さ調整式
- シートユニット
 - ・バックサポートカバーには身体の近くからベルトを取り出せるトランクサポートベルト用のダブルファスナーを装備
 - ・全体にメッシュ生地を採用し、さらにバックサポートのクッション材は通気性と圧分散に優れた立体編物(10mm)を採用



※製品の仕様は改良のために予告なく変更することがあります。

目次

- 安全にお使いいただくために ……P1・2
- 各部の名称 ……P3
- 製品構成 ……P3
- オプション部品 ……P3
- 使用前点検 ……P3
- 各部の取り扱い ……P4・5・6・7・8・9
- 上肢保持用テーブル ……P10・11
- 調節スリングシートについて ……P11
- インナーパッド(体幹パッド・骨盤パッド)の取り扱い ……P12
- 開き防止ベルトの取り扱い ……P13・14
- 車への積み下ろし ……P14
- 折りたたみ方・開き方 ……P15・16
- アームサポート金具(AS-2)を取り付けた場合の注意 ……P17
- 車載使用について ……P18・19・20
- 車載固定部品の取り扱い ……P21
- 車椅子の取り扱い ……P22
- お手入れ・メンテナンス ……P23
- 仕様 ……P23

- ⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

● 警告 (使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。)

- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりしての移動(走行)はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでは使用しないでください。(一般的にも禁止されています。)
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。
(ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります大変危険です。やむをえず) 駐車するときは必ず介助者が付きそってください。
- ⊘ 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。
- ⊘ 本人を座らせたまま、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- ❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。)
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所へ移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。

● 注意 (使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が) 発生する可能性が想定される事項です。

- ❗ 医師の処方で製作された場合。
- ⊘ 本人以外での使用はしないでください。
(個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出ししたりしないでください。)
- ⊘ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 車椅子を正常な状態で走行させていても、不意に前輪が段差に引っかかった場合には、前方へ転倒する可能性があります。走行する際は前方の路面状態を確認しながら進んでください。特にティルトやリクライニングを起こした姿勢で胸ベルトを緩めに調整している場合に前方転倒のリスクが高まりますので、十分にご注意ください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。(段差越えについては22ページを参照してください。)
- ❗ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドアなどの付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。

- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。（開き防止ベルト、および持ち運びについては13～14ページを参照してください。）
- ❗ 本人が座った状態でのリクライニングやティルトの操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⊘ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⊘ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊘ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊘ 押し手ハンドルに重い物を引っ掛けしないでください。状況によっては、急に後方に倒れることがあります。
- ⊘ 子供が背もたれなどにぶらさがらないようにしてください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- ⊘ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊘ 保護者・介助者などが寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊘ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊘ シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⊘ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ❗ 走行する車両内で座席として使用する場合は、この取り扱い説明書の本文(P18～P21)をよく読んで理解し、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において実施してください。
- ❗ 車椅子を車両に固定する際は、車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に車椅子固定装置の取り扱い説明書をよく読んで理解し、正しく使用してください。
- ⊘ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくとう部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。特にメカニカルロックは水にぬらさないよう注意してください。
- ⊘ 河川や海辺、プールなどの水際での使用、または水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊘ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称



※アンダートレイはオプションです。

製品構成

		個 数
●基本フレーム		1
●調節スリングシート (背・座)		1
	レッグサポートカバー	1
●シートユニット	バックサポートカバー	1
	座クッション (セミモールド)	1
	アームガード	左右1対
	ヘッドサポート (Ⅱ型)	1
●ダイヤルロック式押し手ハンドル		

オプション部品

●日よけ	
●介助ブレーキ	P6
●転倒防止装置	P7
●アームサポート金具	P7
●上肢保持用テーブル	P10・11
●ヘッドサポート (Ⅰ型)	
●アンダートレイ	
●インナーパッド (体幹パッド・骨盤パッド)	P12
●インナーパッド・ハイタイプ	P12
●胸ベルト	P8
●胸肩ベルト	P9
●トランクサポートベルトⅠ型	P8
●トランクサポートベルトⅡ型	P8
●骨盤ベルト	P8
●骨盤サポートベルト	P8

使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎折りたたんだ状態から開いたときは、各部のロックが確実に効いているなど、正しく開いていることを確認してください。
- ◎リクライニング機構やティルト機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

各部の取り扱い

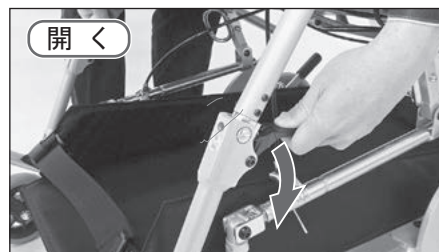
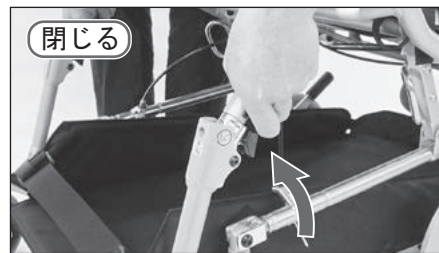
●折りたたみレバー(前足フレーム)/(バックサポート)

REST-wagon II eを折りたたむ際に操作します。前足の折りたたみレバーは、レバーを閉じる、もしくは、開くとロックが解除します。製品の折りたたみ方法はP15を参照してください。折りたたみのときは、基本的にレバーを閉じる方向にパイプごと握ってロックを解除してください。折りたたみから開いたあとには、必ず左右のロックがかかっていることを確認してください。ロックピンが表面よりわずかに出ているぐらいが、ロックの目安です。凹んでいるときはレバーにガタつきがあり、ロックされていません。バックサポートの折りたたみレバーの方は開き方向で操作してください。



バックサポートの折りたたみ

前足の折りたたみ操作



- ・折りたたみレバーを金具と一緒に丸ごと握って操作をすると指をはさみやすくなり大変危険です。レバーの先だけをにぎってください。
- ・折りたたみレバーを操作する(ロック解除)ときは、手や指などはさまないように十分に注意してください。
- ・車椅子を開く際に、折りたたみレバーや金具で手や指などはさまないように十分に注意してください。
- ① 決して本人が乗っている状態で折りたたまないでください。
- ・近くに小さなお子様がいることを確認してください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

●ティルトレバーとリクライニングレバー

ティルトとリクライニングは、無段階で調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック(角度固定)できます。

- ① ティルト式リクライニング(ティルト)
ヘッドサポート～フットサポートまでが一体となって背座間角度が一定のまま、リクライニングします。
- ② リクライニング
バックサポートのみがリクライニングします。



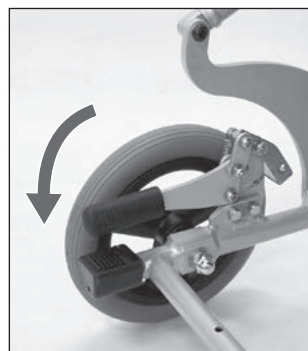
- ・リクライニング(ティルト)角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- ・リクライニング(ティルト)レバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

●ブレーキ

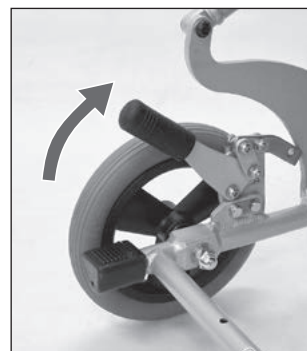
停車するとき、乗り降りるときに使用してください。ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

- ・乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- ・坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ・ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です。すみやかに取り扱い業者にご相談ください。
- ・車載して使用する際は、定められた位置に車椅子をセットし、ブレーキをかけてから車載用の固定ベルトで車椅子をしっかりと固定してください。

ブレーキがかかった状態



ブレーキを解除した状態



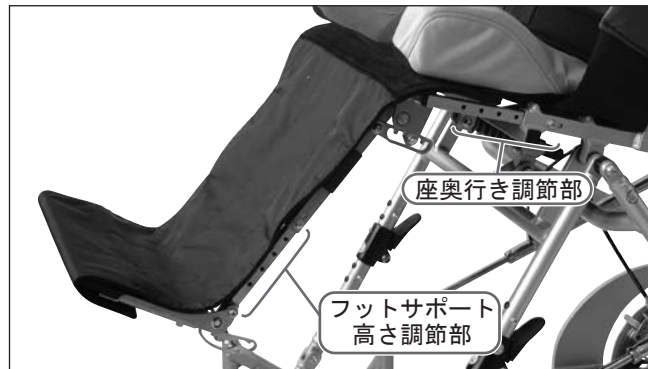
各部の取り扱い

●座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。

ボルト・ナットによる差し替え式です。

座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節も同じく10mm間隔で調節できます。座の奥行きを伸ばしたときは、座クッションも前方へ取り付けてください。

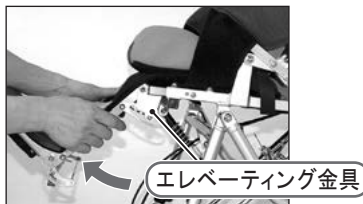


●レッグサポートのエレベーター

・上げる設定の操作

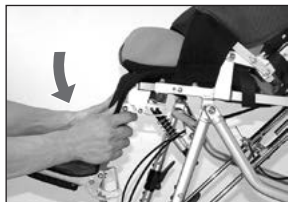
レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具を指で押し上げながらレッグサポートを上げてください。

下げきりから4段階約14度きざみで角度設定ができます。



・下げる設定の操作

レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具を指で押し上げながらレッグサポートを下げてください。

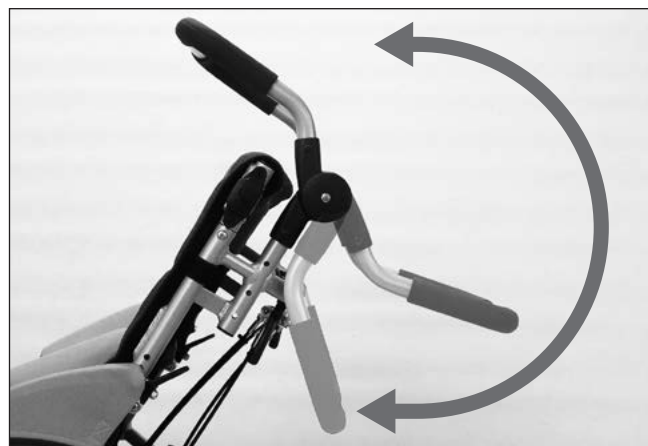


① 指をはさまないように、注意して操作してください。

●高さ可変押し手ハンドル

リクライニング(ティルト)角によって、押しやすい高さに調節できる可変式の押し手ハンドルです。

押し手ハンドルの根元にあるダイヤルロック内側のボタンを指で押し込むとロックが解除されて、押し手ハンドルがフリーに動きます。押し手ハンドルを押しやすい高さに調整したらボタンから指を外してください。ダイヤルの最も近い刻み位置でロックがかかり、押し手ハンドルが固定されます。折りたたんだ際に、押し手ハンドルの設定を変えると折りたたみサイズをコンパクトにすることが出来ます。



●フットサポートの角度調節

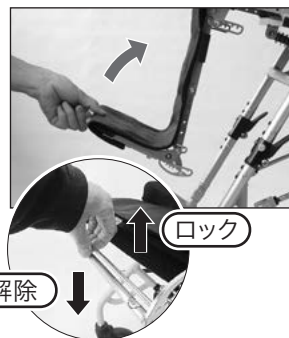
・開く設定の操作

フットサポートをかるく持ち上げ、左右のフットサポート角度可変金具(ノコギリ金具)を指で持ち上げながらフットサポートを開きます。上げきりから5段階約14度きざみで角度設定ができます。



・閉じる設定の操作

フットサポートの先端を持ち上げながら適切な角度に設定してください。フットサポートを閉じた状態で下側にある横棒を持ち上げるとフットサポートの開き止めのロックがかかります。ロックを解除する場合は、横棒を押し込んでください。



①

- ・ダイヤルロックを操作し、押し手ハンドルの角度を変更したときは、ロックがかかって押し手ハンドルが固定されていることを必ず確認してください。例えば、ダイヤルロックのボタンが押し込まれたままになってロックがかかっていないと、押し手ハンドルが急に上ったり下がったりして危険です。
- ・子供がぶら下がったりしないよう注意してください。またかばんや荷物をかけないでください。
- ・高さを調整するときには、ダイヤルロックの隙間で指や皮膚をはさまないように注意して操作をおこなってください。

各部の取り扱い

●背高さ調節

お子様の成長変化に合わせて、ヘッドサポートパイプの高さ調節がおこなえます。初期設定より30mm間隔で伸ばすことができます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

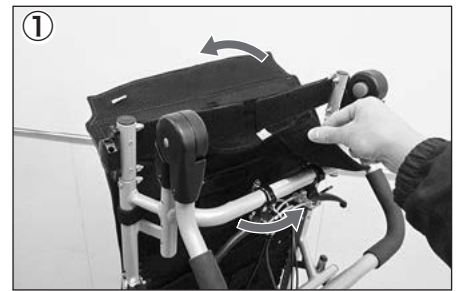
高さ調節をおこなう際は、以下の手順で行ってください。

- ① バックサポートカバーと背スリングシート上端の分割式のセンターシートを一旦剥がしてください。
- ② 高さ調節をおこなった後に分割式のセンターシートを張り直してください。
- ③ バックサポートカバーを張り直してください。

※高さ調節をおこなうと、日よけの高さも同時に変わります。

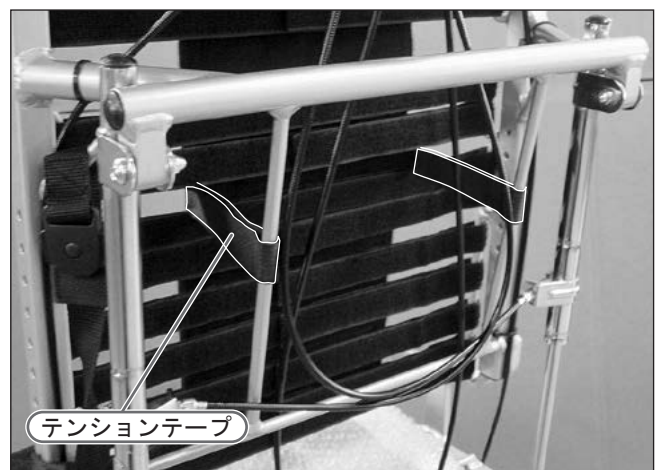


- ・高さ調節をおこなう際は、必ず高さ調節金具の左右の高さを揃えてください。
- ・調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみや締め忘れがないようにご注意ください。



●背スリングシートのテンションテープについて

テンションテープは、背スリングシートの余分な揺れを減少させ、サポートインナーパッドの支持力を向上させることを目的にシートを後方に引っ張るように装着しています。このため、背スリングシートの調整をおこなう際は、テンションテープを一度ゆるめて、調整後にはしっかり引き直してください。



●介助ブレーキ（オプション）

走行中や坂道でスピードを減速する役割のブレーキです。ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車椅子の向きが急に変わってしまい危険です。



- ・介助ブレーキの効きが弱くなってきた、または左右の効きに違いを感じたときは、取り扱い業者にご相談ください。



各部の取り扱い

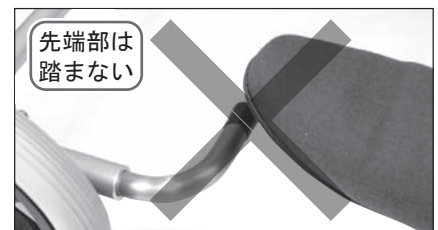
●転倒防止装置(オプション)

REST-wagon II e は、ティルトやリクライニングの倒し角により後車輪をやや後方にレイアウトしておりますが、使用環境(坂道や傾斜が多いなど)やティルトを倒したときの後方安定性に不安定な様子が見られたときは、転倒防止装置(オプション)の取り付けをおすすめします。



(取り付け方法)

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。
転倒防止装置の下側にあるプッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出てセットされます。取り付け後は、転倒防止装置が確実にセットされていることを必ず確認してください。



<使用方法>

転倒防止装置は、後方転倒を防ぐためのものです。必ずセットした状態でお使いください。ただし、転倒防止がひっかかる、または段差越えが頻繁にあるなど、場面によっては向きを変更して解除することができます。解除は、プッシュボタンを操作して、転倒防止装置を本体内側(横向き)に回転させてください。フレーム内側に空いている穴のところで再びプッシュボタンが設定されます。この解除の状態では、転倒防止装置は機能しません。その場が済んだら再びセットしてください。



- ・転倒防止を内側に設定した状態で、ティッピングする際は、決して先端部を踏まないでください。転倒防止装置のプッシュボタンが破損するおそれがあります。パイプが曲がっている根元あたりを踏むようにしてください。
- ・転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探るか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。転倒防止装置と地面の間で足などはさまないように注意してください。

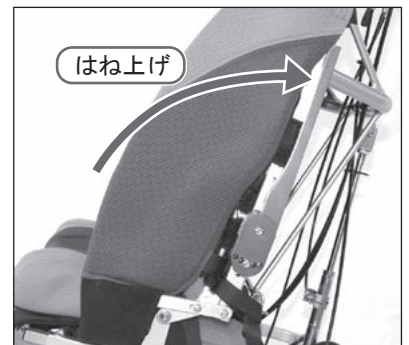
●アームサポート金具(オプション)

当社製の車椅子や姿勢保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。

側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、バックサポートの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階ずつ11度刻みで角度が変更できます。

アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。

※この部分に指やものはさまらないように注意してください。



- ・必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などで指がを負うおそれがあり危険です。

各部の取り扱い

●胸ベルト・骨盤ベルトの装着について

処方上必要とされたベルト類は、姿勢保持と安全のために必ず装着してください。ベルトのバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。

胸ベルトは、取り付け高さで長さ、骨盤ベルトは長さの調節ができます。



- ・ベルトを装着せずに走行すると、転落のおそれがあります。
- ・安全のために常にベルトを装着することをおすすめします。



●座クッション（セミモールド）

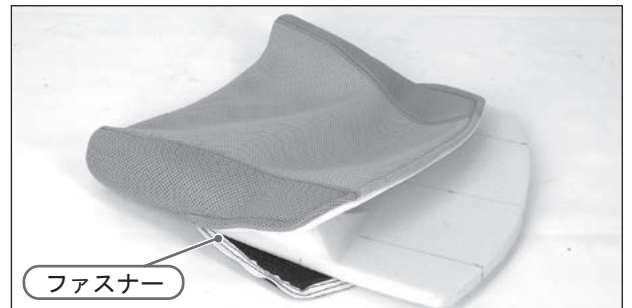
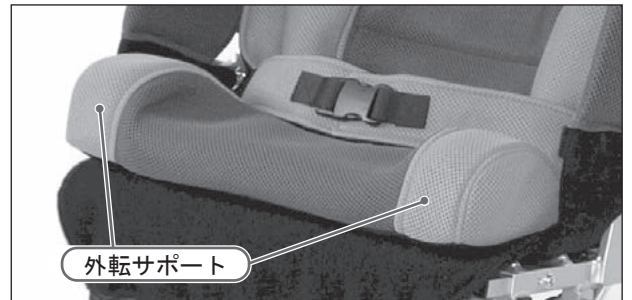
座クッション（セミモールド）には、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート（ウェッジ）と脚の開きを支える外転サポートなどの機能が備わっています。

クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調節をおこなうこともできます。

カバーを洗濯する際は、後方のファスナーを開けて必ず中のウレタンクッションを取り出してください。



- ・決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。



●トランクサポートベルト・骨盤サポートベルト（Ⅰ型・Ⅱ型オプション）

[トランクサポートベルト]

身体により近い、バックサポートカバーのダブルファスナーからベルトを取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

長さで取り付け高さの調節がおこなえます。（マジック式）

取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。

開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるまで上下からしっかり閉じてください。正面のバックルを「カチッ」と奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

[骨盤サポートベルト]

クッション性の高い腸骨パッド（左・右）によりベルトの当たりをやわらげ、またサポート力を高めるためにバックルの左右にあるマジックテープでベルトの締め加減の微調整をおこなうことができます。

（この微調整はベルト装着後におこなうことも可能です。）

ベルト全体の長さは、取り付け部のアジャスターで調節してください。Ⅰ型は、SS、S、M、ML、L、LLの6サイズ、Ⅱ型はS、M、Lの3サイズです。



※写真の例はⅠ型です。



- ・処方上、必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
- ・ベルト類はバックルを「カチッ」と奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。

各部の取り扱い

●胸肩ベルト(オプション)

基本仕様の胸ベルトに肩ベルトが付いた形式となります。肩ベルトは、頭部や体幹部が前のめりに屈曲してくる時に姿勢を整えるために用います。肩ベルトの付け外しはバックル式とマジック式の2種類あります。

ベルトホルルの位置で体格や成長に合わせて肩ベルトの高さ調節がおこなえます。

・胸肩ベルトには、スタンダードタイプ(2種類)とトランクサポートベルトI型・II型の4種類ありますが、肩ベルトの取り付け方法は全て同じです。

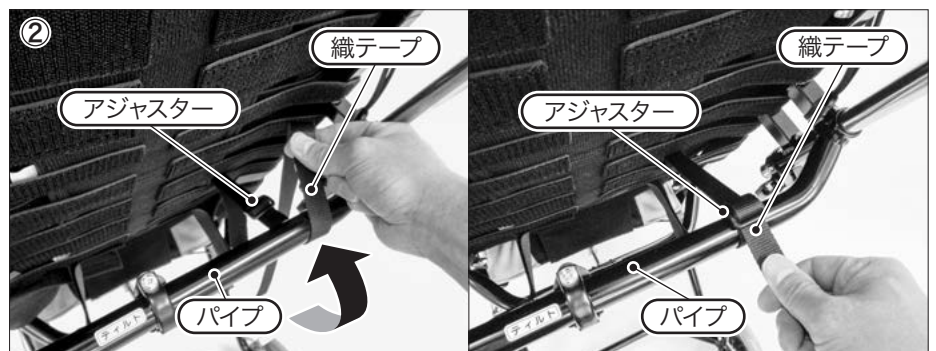


〈取り付け方法〉

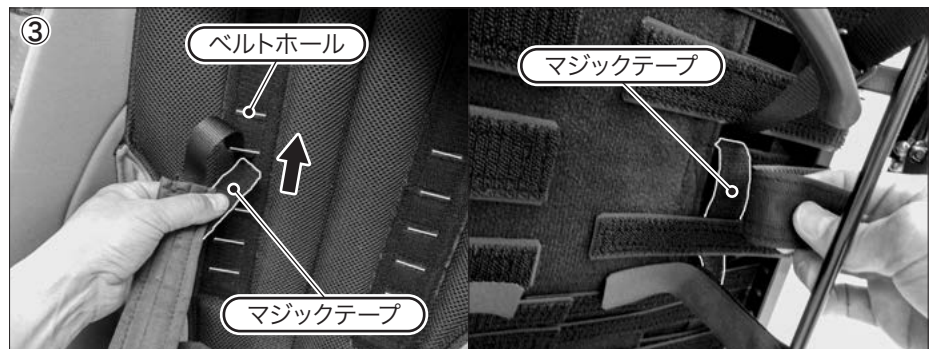
①肩ベルト用パッドに織テープを通し、最も肩に近い高さのベルトホルルに織テープを通してください。



②バックサポート裏のティルトレバーが付いているパイプに織テープを折り返してアジャスターに通してください。このアジャスターの部分で長さ調節がおこなえます。



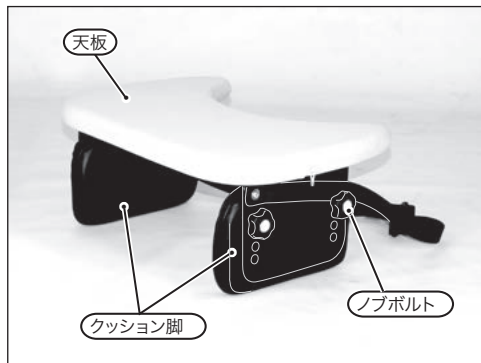
③肩ベルト用パッドが肩に適切に添う位置になるようパッドから出ているマジックテープをベルトホルルに通して、バックサポート裏面のスリングシートに貼り付けて位置調整を行ってください。



- ・肩ベルト用パッドは、決して外さないでください。ベルト本体の織テープのみでは、材質が硬質のためパッドを装着して当たりを和らげる目的と機能があります。
- ・頭が一方向に傾いて首が肩ベルトに擦れてしまうような場合は、姿勢そのものの再調整が必要なことも考えられます。無理に使用を続けずに医療機関にご相談ください。

●上肢保持用テーブル(オプション)

腕の重さを支えて身体が側方へ傾かないよう、または自ら肘をついて（前腕部を支持面に）脊柱を伸展するなど、姿勢保持を目的とした上肢保持用テーブルです。

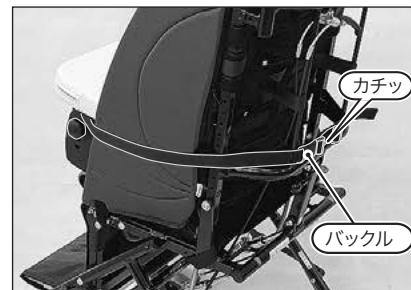


- ・天板の表面はクッション張り（ビニールレザーカバー仕上げ）で、身体の部分をかかわすようにカットアウトしています。
- ・成長したときや前腕を受ける角度に対しては、テーブルの左右にある片側2個（4個）のノブボルトの取付け位置を変えることで、テーブルの高さや角度を変更することができます。

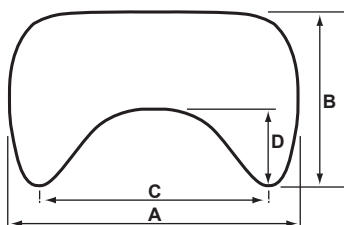
<取り付け方法>



テーブルを座面上に置いてください。



取り付けベルトを背面にまわし、バックルで「カチッ」と確実に装着してください。(車載使用時を除く)

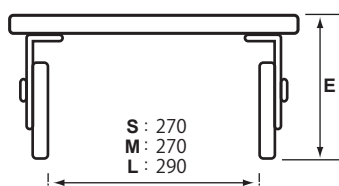


天板

(天板厚40mm)

	A	B	C	D
Sサイズ	435	320	330	120
Mサイズ	435	320	330	120
Lサイズ	475	340	355	135

(単位:mm)



脚部

●高さ調節付(ノブボルト)

	脚ロータイプ
	E (15mmピッチ)
Sサイズ	150~195
Mサイズ	170~230
Lサイズ	215~290

(単位:mm)

<セット内容>

Ⓐ天板1枚

ⓒクッション脚 (2枚)

Ⓑ脚高さ調整板2枚(樹脂製)

○取り付けベルト (バックル式) 1本

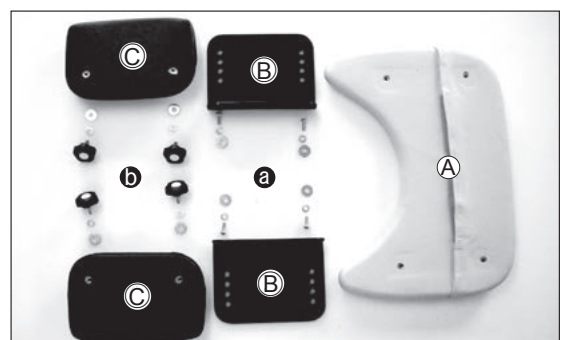
※写真にはありませんが、脚高さ調整板に付いています。

Ⓐ取り付けビスセット

小ネジ (M6) 4本
バネワッシャー 4個
平ワッシャー 4個

Ⓑ取り付けノブセット

ノブボルト (M6) 4本
バネワッシャー 4個
平ワッシャー 4個

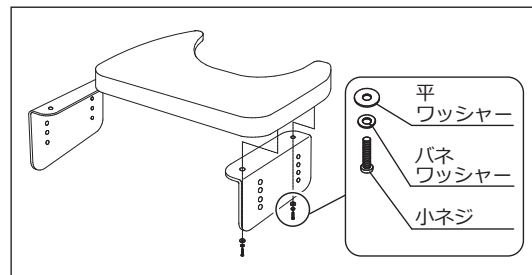


<組み立て方>

①脚高さ調整板の取り付け

L型の脚高さ調整板を天板の裏面に取り付けます。図のようにL型の長い面がテーブルの外側になります。ワッシャーをセットした小ネジをL型の短い面にある二つの穴に通し、天板の裏面側の穴に仕込んである埋め込みナットに固定してください。

最初はドライバーを使わずに手で小ネジを回し、ネジの先端が埋め込みナットに正しくかみ合った感触を確かめてください。*1 一つ目の小ネジが正しくかみ合ったら、2本目の小ネジも手回しで正しくかみ合わせてください。*2最後にプラスドライバー（3番）を使用し、両方の小ネジが脚高さ調整板に密着するまで締め込んでください。



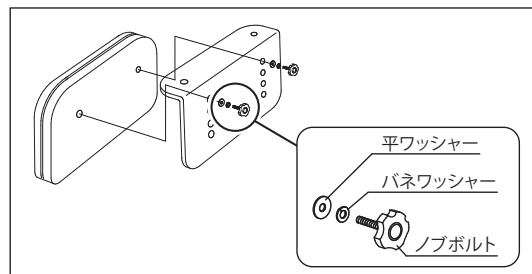
※1 埋め込みナットは小ネジの入り具合を目視できないため、最初からドライバーを使って小ネジを回すと傾いて噛み込んでしまいがちです。斜めに入ってしまった小ネジを締め込んでも脚高さ調整板は固定できません。さらに無理をして強く回した場合、埋め込みナットの固定が外れて空回りし、使用できなくなることがあります。

※2 一つ目の小ネジを先に完全に締めてしまった場合、二つ目の小ネジを埋め込みナットに合わせるのが極めて難しくなります。

②クッション脚の取り付け

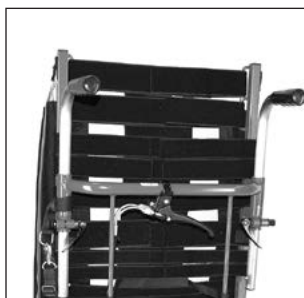
天板に取り付けた脚高さ調整板の内側面にクッション脚を取り付けます。クッション脚は角が丸くなっている側が上になりますので上下の向きに注意してください。

図のようにバネワッシャーと平ワッシャーをノブボルトにセットし、外側から脚高さ調整板の穴を通してクッション脚の埋め込みナットにかみ合わせてください。小ネジのときと同様に2つのノブボルトのネジ先端が正しく入った感触を確かめてからそれぞれを最後まで締め込んでください。脚高さ調整穴のノブボルト取り付け位置をずらすことで、天板に傾斜をつけることができます。



- ・火気に近づけないで下さい。燃えたり、熱くなって火傷するおそれがあります。
- ・直射日光下では表面が熱くなるおそれがあります。火傷などに十分ご注意ください。
- ・踏み台や腰掛として使用しないでください。本機が破壊したり、バランスをくずして転倒するなどしてけがをすることがあります。
- ・身体の前方に置かれる上肢保持用テーブルは、車載時に、急ブレーキで使用者が前方へ飛び出しかけた場合、腹部を圧迫してしまうリスクも考えられます。ご本人の姿勢を安定させる為に必要不可欠となるケースでは、上肢保持用テーブルの取り付けベルトは使用せず座面に載せるだけの設置にしてください。アクシデントの際に、テーブルは前方に飛び出すこととなりますが、腹部の圧迫を避けることができます。飛び出したテーブルが同乗者を直撃しないように、車椅子のすぐ前の席はできるだけ空けておくなどの注意をお願いします。

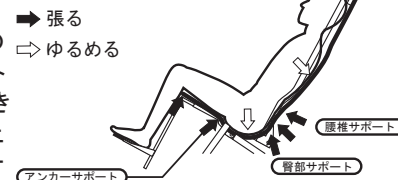
調節スリングシートについて



带状のスリングベルト（マジック式）の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。

〔調整例〕

バックサポートは、①骨盤の前後の傾き（バックサポート下部）②体幹の前後の傾き（バックサポート中央～上部）③腰部の支え（バックサポート腰部）を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部（坐骨周辺）をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。



長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

インナーパッド（体幹パッド・骨盤パッド）の取り扱い

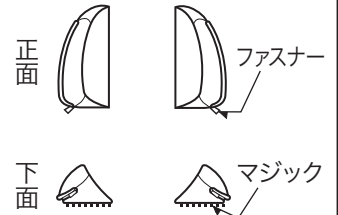
調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部をバックサポートに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的でインナーパッド（体幹パッド・骨盤パッド）を用います。

インナーパッド（体幹パッド・骨盤パッド）は、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付けて、その上からバックサポートカバーを取り付けて使用します。

インナーパッドには、ロータイプとハイタイプがあります。ハイタイプは、裏面のマジック（カタ）の色がグレーです。（ロータイプは黒です。）

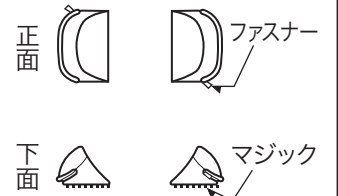
体幹パッド（2個）

- 左、右別
- ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- マジック面がスリングシート側です。



骨盤パッド（2個）

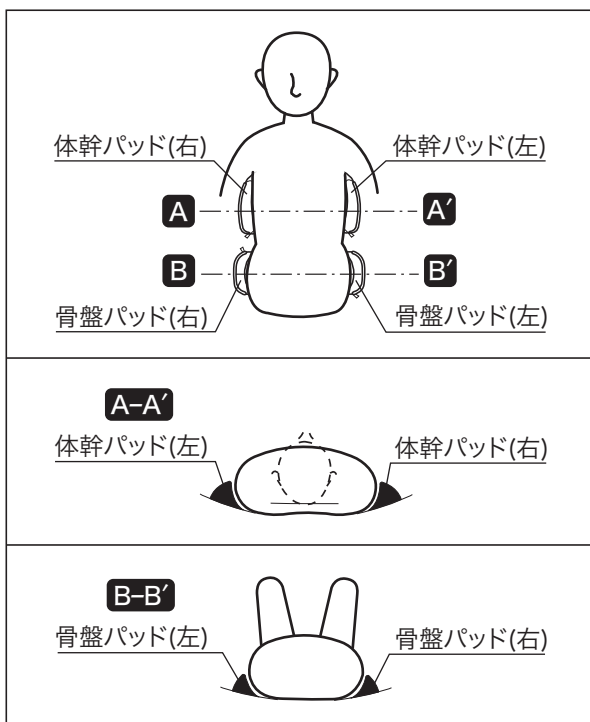
- 左、右共通
- ファスナーがついている方が外側です。
- マジック面がスリングシート側です。



〈インナーパッドの取り付け方法〉

1 調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

2 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取り付けます。



体幹パッド

- 側弯などの影響で一方向に体が傾く場合などには、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。
- ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

骨盤パッド

- 骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

3 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

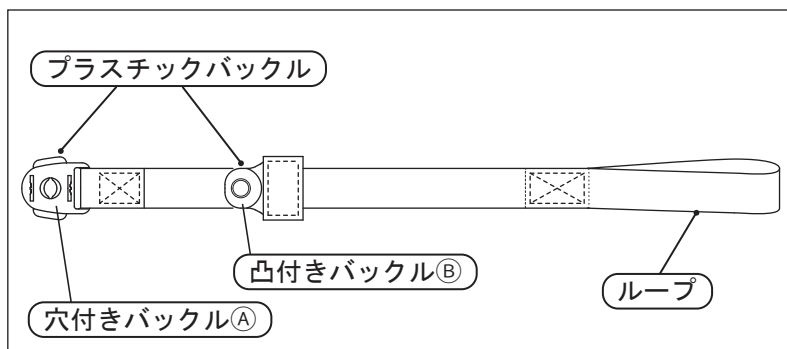
- パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはREST-wagon II eを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

●開き防止ベルト・各部の名称

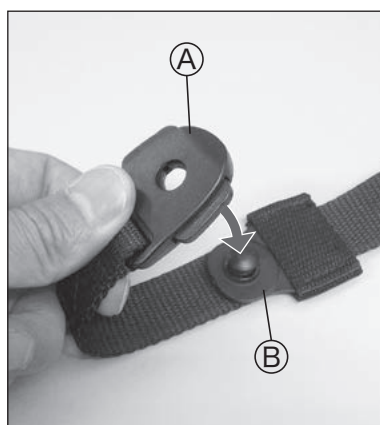
プラスチックバックルは、開き防止ベルトの先端に穴付きバックル[Ⓐ]と、中間のところに凸付きバックル[Ⓑ]を縫いつけています。後端には開き防止ベルトをバックサポートに取り付けるためのループがあります。



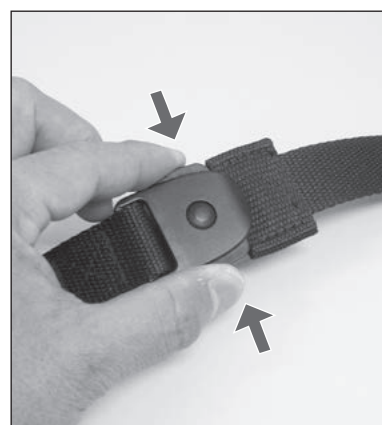
・プラスチックバックルの割れや欠けなどの破損が無いこと、付け外しが正常に機能すること、ベルト部分に糸のほつれや破損が無いことを常に確認してください。

●プラスチックバックルの取り扱い

穴付きバックル[Ⓐ]を凸付きバックル[Ⓑ]の根元まで、しっかりはめ込むと自動的にロックします。外すときは、穴付きバックル[Ⓐ]の左右にあるボタンを押し込むとロックが解除されて外れます。



凸付きバックル[Ⓑ]の凸部の上からはめ込んでください。根元まですき間なくはめ込むと自動的にロックします。



左右に飛び出しているボタンを押し込むと解除してバックルが外れます。



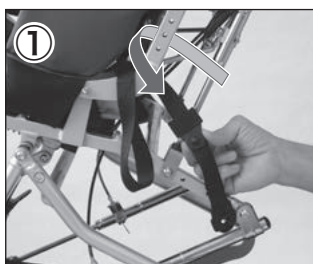
・プラスチックバックルを、はめ込む際には[Ⓐ]と[Ⓑ]の間に布や紙、その他異物が無いことを確認してください。異物は破損の原因であり、またバックルがはまらないことや無理に押し込むと外せなくなる場合も考えられます。
・ご使用の際は、正常にロックされて外れないことを必ず確認してください。

REST-wagon II e本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかのバックサポートに取り付けることができます。(出荷時は左側に取り付けています。)

取り付けるときはバックサポート下端あたりを目安にしてください。

本機を折りたたんだときに、この位置に取り付けることによって、開き防止ベルトはしっかり固定できて開きにくくなります。



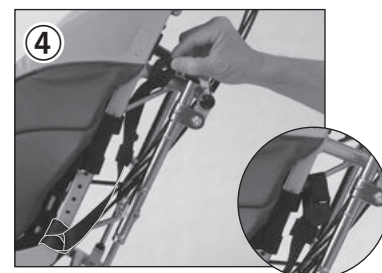
① 開き防止ベルトのループを背パイプ内側からバックサポートのスリット(またはスリングの間)に通します。



② ループに穴付きバックル[Ⓐ]をくぐらせてください。ベルトがねじれないように注意して通してください。



③ ループのところに余りやゆるみがないようベルトをしっかり引ききってください。

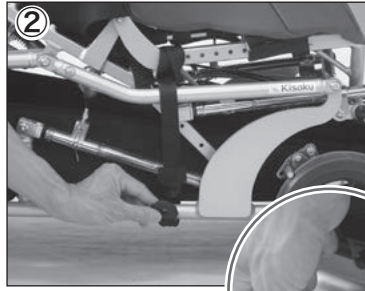


④ 通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにバックサポートヌキパイプと補強のスミパイプの間に穴付きバックル[Ⓐ]を内側からくぐらせて折り返し、凸付きバックル[Ⓑ]にはめ込んでください。

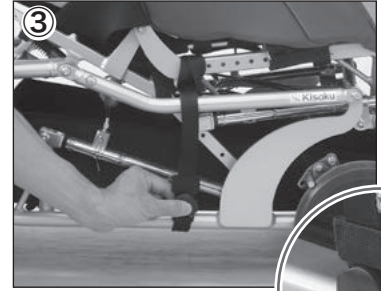
開き防止ベルトの使用法



① 折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトをベースフレームの内側にセットします。ベルトが捻じれないように注意してください。



② 穴付きバックル①をベースフレームに巻くようにして折り返してください。



③ 穴付きバックル①を凸付きバックル②に、はめ込んでください。正常にロックされて外れないことを必ず確認してください。



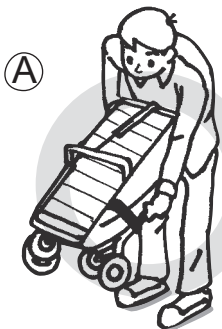
- 開き防止ベルトを使用するときは、折りたたんだフレーム部、各部で指などはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけて置く際は、開き防止ベルトを正しくセットして、プラスチックバックルが確実にロックしていることを確認してください。
- 開き防止ベルトがロックしていなかったり、ベルトの通し方に誤りがある、プラスチックバックルのはめ込みが浅くてロックが不十分になっていたり不適切な状態では、フレームが不用意に開いてしまって、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくロックしてください。
- ベルトおよびプラスチックバックルの損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいたり、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、バギーを抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさんだり、周囲の物を破損させるなどのおそれがあり危険です。

車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意



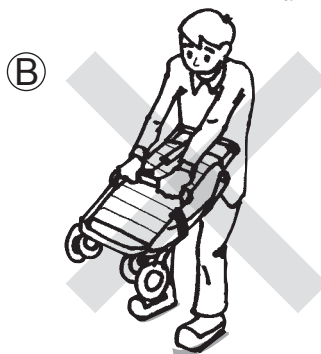
自動車のトランク（荷室）に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱いってください。

図①のように、後輪のついているベースフレームをつかんで、本機全体を底からかかえるようにして持ち上げてください。

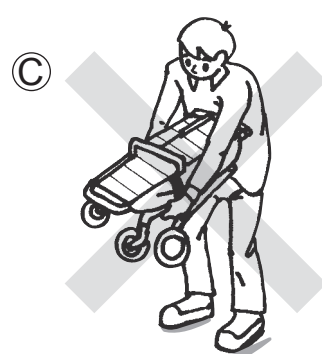


○ ベースフレームを持ち、全体をかかえてください。

図②③のように、バックサポートのパイプのみ、もしくは前足フレームや後足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



× バックサポートのパイプのみを持っている。



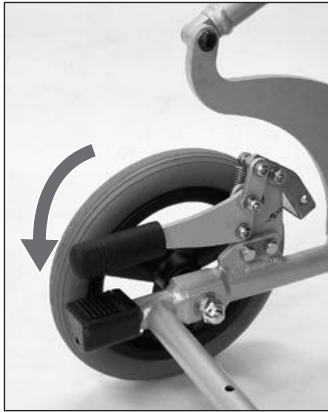
× 前足フレームのみを持っている。



- ・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

折りたたみ方

1



フットブレーキ(左・右)をかけてください。
(注:アンダーレイの荷物や機器は別に移してから、折りたたみを始めてください。)

2



押し手ハンドルを下方へ折りたたんでください。



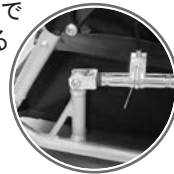
手ばさみ注意!

3



ティルトをとまるところまで倒してください。

※ティルト用メカニカルロックが最後まで縮んでいることを目視で確認してください。



手ばさみ注意!

4



リクライニングをとまるところまで倒してください。次にフットサポートをたたんでください。フットサポートの下側にある横棒を持ち上げるとフットサポートの開き止めのロックがかかります。



ロック



手ばさみ注意!

必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください!

手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなるばかりか、フレームを傷付けたり、ワイヤーが破損するおそれがあります。

開き方

1



開き防止ベルトを外してください。

必ず手順に従って開き操作をおこなってください!

手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。

2



バックサポートの折りたたみレバーのところからバックサポートを開いてください。

使用前にはロックがかかっていることを必ず確認してください。



折りたたみレバー



ロック確認!!

3



背座フレームを持ち、斜め後方へ引き上げるようにして開いてください。



手ばさみ注意!



前足フレーム左右の折りたたみレバーは、自動的にロックされますが、**ロックが確実にかかっていることを必ず確認してください。**(4ページ参照)




折りたたみレバー



ロック確認!!



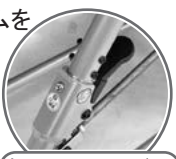
手ばさみ注意!


 ・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトのプラスチックバックルのロックが確実に効いていること、決してバギーが開かないことを確認してください。
 ・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ、周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
 ・開き防止ベルトの取り扱いについては、13～14ページを参照してください。

5



前足フレーム左右の折りたたみレバー（4ページ参照）を握りロックを解除します。ロックが解除したらレバーから手をはなして前足フレームを前方へ送り出すようにして折りたたんでいきます。




折りたたみレバー

 手ばさみ注意！

6



背座フレームが自重で自然にたたまれはじめたら、かかってくる重さを支えながら、前方斜め下へゆっくりとたたんでください。

 手ばさみ注意！



バックサポートの折りたたみレバーを操作して、バックサポートを折りたたんでください。



折りたたみレバー

 手ばさみ注意！

7



開き防止ベルト

バックサポートについている開き防止ベルトを装着してください。（13～14ページ参照）



 ロック確認！！

4




ティルトを起こしてください。（乗せやすい適切な角度に設定してください。）

 手ばさみ注意！

5



リクライニングを起こしてください。（乗せやすい適切な角度に設定してください。）


 手ばさみ注意！

6



ロック解除

フットサポートの下側にある横棒を押し込んでロックを解除してください。そして、フットサポートを開いてください。また押し手のダイヤルロックを操作して、押しやすい高さに調整してご使用ください。

 手ばさみ注意！

7



通常の使用（折りたたんだとき以外）では、開き防止ベルトがぶらつかないように13ページの取り扱い方法にしたがって、開き防止ベルトをバックサポートの周辺でとめてください。

 ロック確認！！

アームサポート金具(AS-2)を取り付けた場合の注意

アームサポート金具を取り付けた場合は、フレームを折りたたんだ際に矢印の距離①（アームサポート金具とブレースパイプのすき間）がせまくなることがあります。アーム金具を取り付け高さ、角度によっては距離①は変わります。この①のすき間15mm以下になると手や指をはさむおそれがあるため、以下の付属品のカラーを用いて、取り付け方法に従ってすき間を調整してください。

※Sサイズにおいては、この微調整は不要です。



アームサポート金具を以下の条件で取り付けて折りたたんだ状態が最も①の距離がせまい設定です。

- ・アームサポート金具取り付け高さ：一番上
- ・アームサポート金具取り付け角度：一段目
（アームサポートの角度が最も前下がり状態）

上記(右の写真)の条件で設定する場合は、手や指をはさむおそれがあります。必ず上記の手順で調整をおこなってください。



ご注意

●カラーの取り付け方法

付属品(セット内容)



カラー6個
(片側に3個)



切り込み加工がされています。取り付ける際はここを開いてはめ込みます。

この付属品のカラーをアームサポート金具の取り付け高さ・角度によって、背リクライニング用メカニカルロックのシャフトに挿入してください。

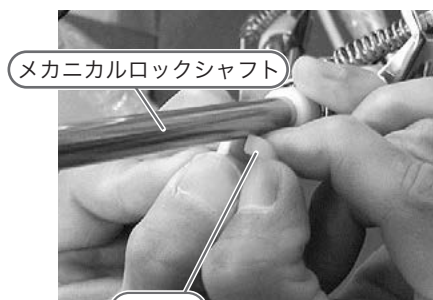


メカニカルロックシャフト



ここに取り付けます

- ① 最初に折りたたみをおこない、①の距離(アームサポート金具とブレースパイプ)が15mm以上であるかの確認をしてください。
- ② ①の距離が15mm以下の場合、背リクライニング用メカニカルロックシャフトにカラーを取り付けてください。
①の距離が15mm以上確保されるまで、必要な個数を取り付けてください。
※カラーを1個取り付けるごとに背リクライニングの倒れ角度が約2度少なくなります。
- ③ カラーを取り付ける際は、カラーの切り込み部分を右の写真のようにメカニカルロックのシャフトに押しあてながら開いて取り付けてください。



メカニカルロックシャフト

カラー



カラーを取り付ける際は、切り込み部分の切断面で指など挟まないよう十分に気をつけておこなってください。

車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意

- ① 本車椅子が備える車載固定部品やフック受けケージなどの車載使用を補助する構造は、すべての車載使用の安全を保障するものではありません。
- ② 本車椅子に装備された胸ベルト、骨盤ベルト、肩ベルト等は、通常使用での姿勢保持用のものであり、車両が走行する際の様々な加減速、路面の凹凸、カーブでの揺れなどに対して使用者の身体を完全に支えるものではありません。



- ・車載使用については、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において、実際のドライブ中にやむを得ず急ブレーキや急ハンドルなどの運転操作がなされた場合や、万が一の衝突事故が起こった場合のことを十分に考慮したうえで実施してください。

次ページの注意事項を必ずご確認ください。

車載使用時の車椅子の固定方法

車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に、使用する車両の取り扱い説明書を十分に確認して下さい。

多くの福祉車両に設けられている4点式ベルト方式の固定装置では以下のようになっています。

- ① 車椅子を福祉車両の所定の位置に合わせたら、車椅子のブレーキをかけてください。
- ② 前方左右の固定ベルトのフックは、座フレームの下方にあるフック受けケージ(固定位置マークシールの位置)に左右それぞれ掛けてください。(写真1)
- ③ 後方左右の固定ベルトのフックは、座フレーム後部の左右に取り付けている車載固定部品にそれぞれ掛けてください。(写真2)



フック受けケージ



写真1

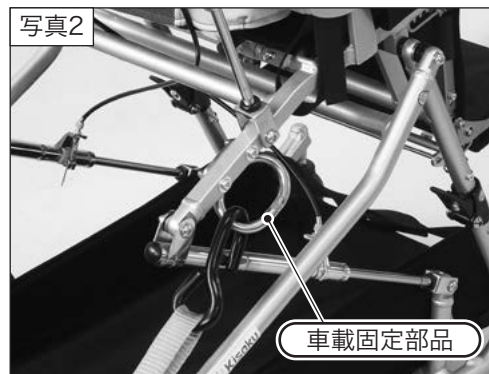


写真2

車載固定部品



- ・ 本機(製品)を車両に固定する際は、固定位置マーク以外(フレームや部品など)に車両のフックをかけないでください。
- ・ 車載固定部品について、弊社指定の金具以外を取り付けてのご使用はお控えください。想定外の破損やアクシデント、固定不良などの恐れがあります。



固定位置
マーク

- ④ 固定ベルトの引き方向が調節できる場合は、前後の固定ベルトの床との角度が45°に近くなるようにしてください。(写真3)
- ⑤ 固定ベルトは、できるだけ捻じれが少なくなるように掛けてください。一回転以上捻じれている場合は必ず捻じれを戻してください。捻じれて張られた固定ベルトは走行中に緩むことがあります。(写真4)
- ⑥ 固定ベルトは、できるだけ途中のベルト部分が車椅子のフレームや車輪に接触しないようにしてください。走行中に接触箇所がずれてベルトが緩んだり、擦れによってベルトを劣化させてしまうことがあります。
- ⑦ 固定ベルトの車両側の引き出し位置によっては、フックやベルト部分が車椅子のフレームやタイヤに干渉して遠回りする状態となり、不安定な固定になってしまうことが考えられます。このような場合には、車載固定部品の取り付け位置を出荷時の状態から変えることで、固定ベルトが直線的に張られて安定した固定を得られることがあります。詳しくは「車載固定部品の組み替え方法」(P21)をご覧ください。
- ⑧ 車椅子を固定したあとは、絶対にティルト角度の設定を動かさないでください。※ティルト角度の設定については、20ページをご覧ください。

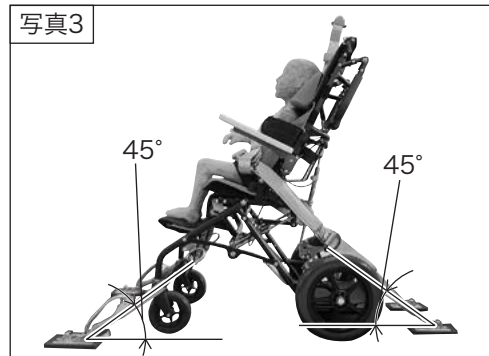


写真3

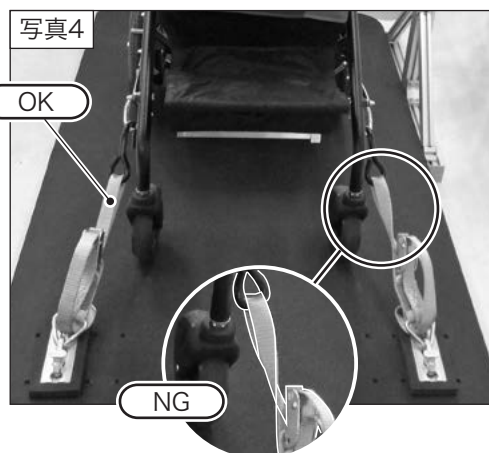


写真4

OK

NG



- ・ 搭乗者の手足や腕、衣服や搭載品などが車椅子や固定ベルトなどに挟まれないように注意してください。
- ・ 指定されている位置以外への固定はおこなわないでください。
- ・ 走行前に固定ベルトが捻じれていないか、また確実に固定されていることを確認して下さい。確実に固定されていないと走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなどの重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- ・ 車載使用でオプションの上肢保持用テーブルを使用する際は、カーシート用テーブルをお勧めします。

●(重要)車両に装備されたシートベルトの装着について

搭乗者は、車両の取り扱い説明書に従った方法で車両の3点式シートベルト(腰ベルト、肩ベルト)を必ず装着してください。搭乗者が車両に装備されたシートベルトをしていない場合には、急停車の際に搭乗者が車椅子を離れて前へ飛び出すのを阻止できません。

本車椅子は姿勢変換機能を備えていますが、車載使用時には図1に示すようにティルト角度が5~10°、バックサポートのリクライニング角度が10~15°に設定されて前を向いている姿勢が理想的です。(本製品は、車載使用時の角度設定をティルト角が10°、バックサポートのリクライニング角が垂直から15°を目安とした設計になっています)搭乗者の身体的な事情でこの姿勢まで起こせない場合は、できる範囲でティルト角とバックサポートのリクライニング角を起こしてください。

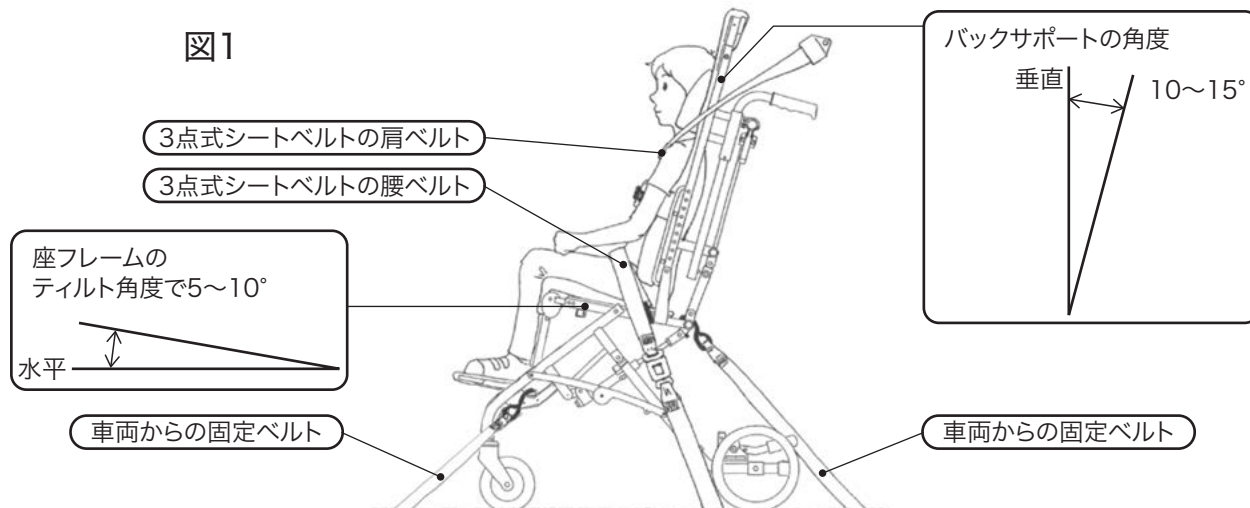
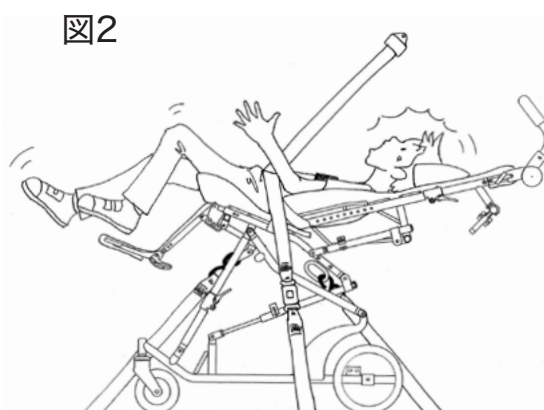


図2に示すようにバックサポートのリクライニングを倒すほど急ブレーキ時には、身体がシートベルトの内側を滑り抜けて前方へずれやすくなります。この図2のようにティルト角はあまり倒さずにバックサポートをリクライニングさせた全体的にフラットに近い条件の場合、搭乗者は車椅子から滑り落ちてしまいます。



一方で図3のようにティルト角を倒して座面が立っている場合、搭乗者は座面に止められて滑り落ちにくくなりますが、上半身が圧縮されるようなダメージを受けるリスクが高まります。

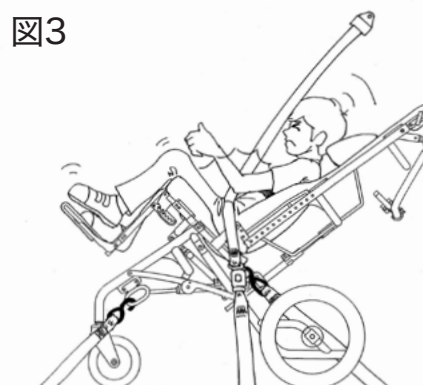


図1のような前を向いた姿勢や車両の取り扱い説明書にあるような標準的なシートベルトの装着が難しい場合には、急停車時に搭乗者に起こる慣性的な動きを少しでも車両のシートベルトで受け止められるように努めてください。

図1のように車両のシートベルトが機能している場合、搭乗者が前に飛び出しそうになる動きは座面に押し当てられる動きに変わります。車椅子は、この座面に下向きにかかる荷重に耐えることで衝撃を受け止めます。本車椅子は、アクシデントに際して、車両のシートベルトなしに搭乗者を受け止めることはできません。



- ・ 車椅子での乗降は必ず介助者が行ってください。
- ・ 安全のため車椅子本体に取り付けられている(処方された)ベルト類と車両の3点式シートベルトはどちらも必ず装着してください。
- ・ 発進前に車椅子が確実に固定されていることを再確認してください。

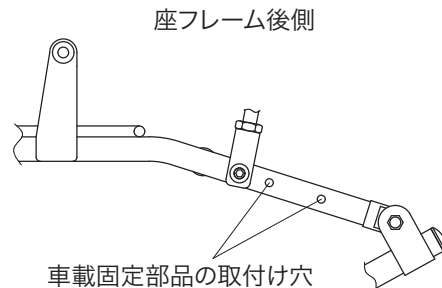
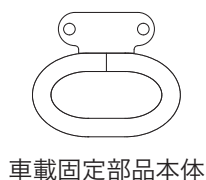
車載固定部品の取り扱いについて

REST-wagon IIは4ヶ所に車載固定部が標準装備されており、車載時に固定ベルトのフックをかけることができます。後方2ヶ所に取
り付けている車載固定部品は車載固定ベルトをかける向きによって取り付け位置を変更することができます。

取り付ける位置は、座フレーム後側にある台座の内側(A)または外側(B)の(A)と(B)の2パターンがあり、出荷時は(A)で組付けられてい
ます。(組み替える場合は、取り扱い業者に依頼してください。)

●構成部品の内容

- ・車載固定部品本体：<2個>
- ・六角穴付き半ネジボルトM6×30(緩み止め剤付)：<4本>
- ・ワッシャー φ6×φ13×1.0：<4個>
- ・袋Uナット M6：<4個>

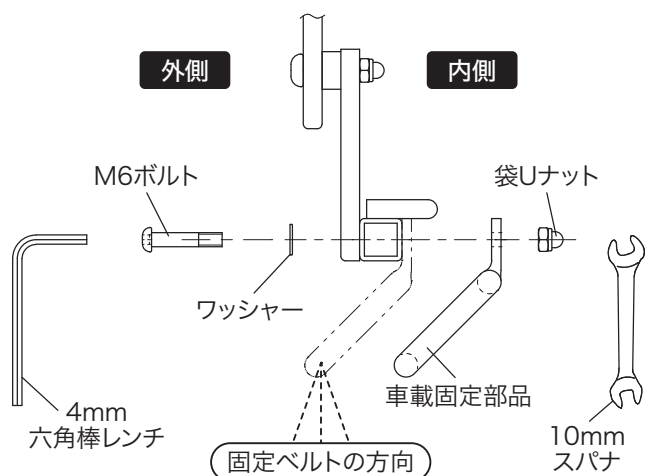


●車載固定部品の組み替え方法

固定ベルトの車両側の引き出し位置やフックの形状などを考慮して、下図の(A)か(B)を選択してください。(A)の場合は、そのままご使
用ください。(B)の場合は、4mmの六角棒レンチと10mmのスパナを使用し、ボルトとナットを取り外してください。そして、外側に車
載固定部品を取り付けてください。まず手締めで仮組みした状態で部品の配列を確認し、工具を使ってしっかりと締め込んでくださ
い。(締め付けトルク：5.2N・m)

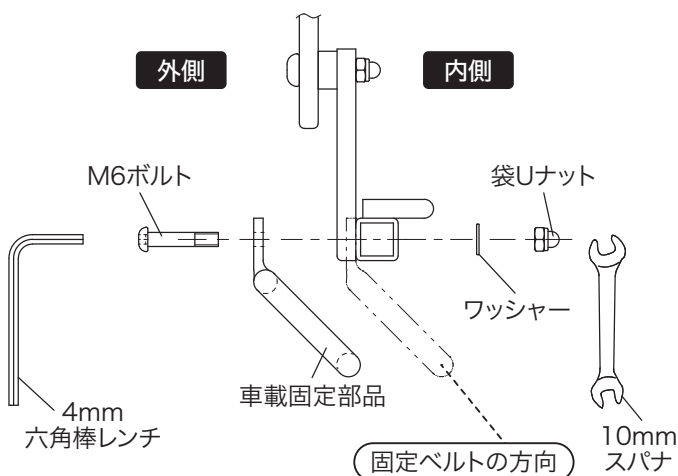
(A)

●後部用の固定ベルトがフック位置のほぼ真後ろから出ている場合



(B)

●後部用の固定ベルトがフレームの中心寄りから出ている場合



〈重要〉

車載固定部品の取り付けが完了したら、4本すべての固定
ベルトを所定の位置に掛けて車両の車椅子固定装置を作
動させ、4本の固定ベルトが均等にたわみなく、しっかり
張っていることを確認してください。



〈注意〉

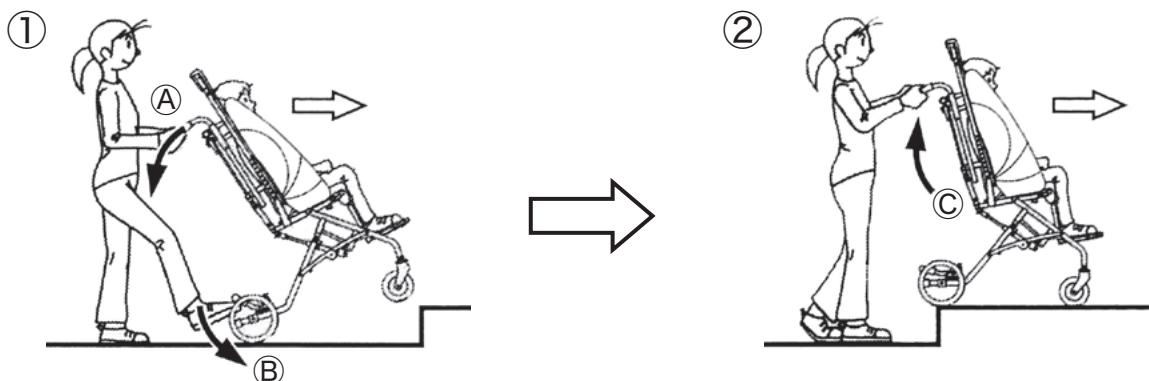
図に示した2つのパターン以外の配列で取り付けられた場合
には、車載固定部品がフレームに干渉して折れたためなくな
ったり、折れたためにも荷物トレーの壁を押しつぶしてしまう
可能性があります。



- ・車載固定部品を組み替える場合は、必ず取扱業者が適切なボルトナットとトルク管理のもとで取り付け作業
をおこなってください。決して、ご利用者様で取り付けをしないようお願いいたします。
- ・使用前には、確実に取り付けられていることを確認して下さい。
- ・車載固定部品としての目的以外での使用は決しておこなわないでください。
- ・車載固定部品のボルトナットやその他本体への締結具合は、定期的にチェックしてください。ねじのゆるみや
脱落などが起因して、走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなど重大な事故につながる
おそれがあり危険です。

車椅子の取り扱い

●段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

A.両手で押し手ハンドルを手前にひきながら・・・

B.ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでそのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

C.押し手ハンドルを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。

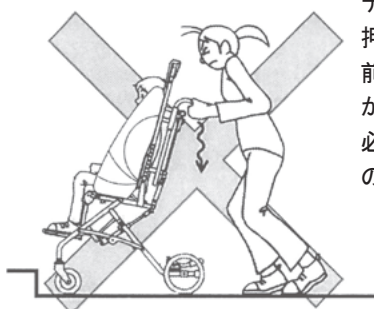


絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください！

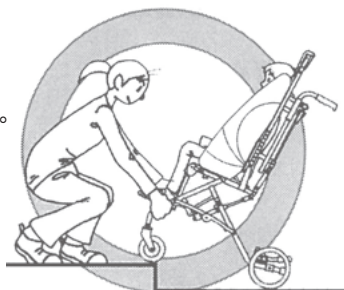
(前方転倒や乗っている方の転落、車椅子の破損などのおそれがあります。)

⊘ 押し手ハンドルだけでの前輪上げは禁止！

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車椅子が破損するおそれがあります。必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作による段差越えは困難な場合があります、無理をすると車椅子が破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

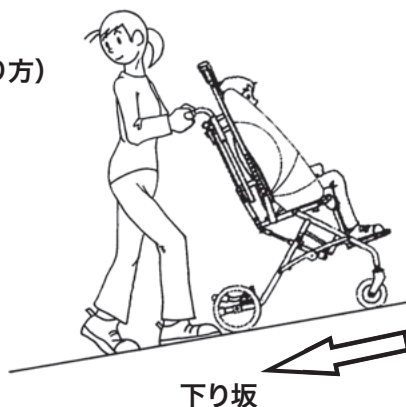
●坂道での操作について

(登り方)



登り坂

(下り方)



下り坂

坂道の登り降りでは、車椅子の操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きに進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。



押し手ハンドルに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

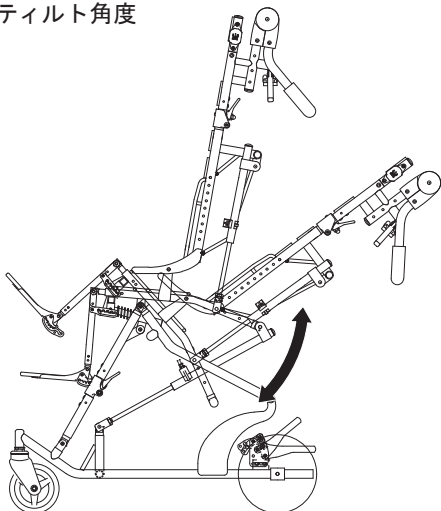
お手入れ・メンテナンス

- ・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りの布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- ・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- ・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗うるか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- ・アームガードを洗うときは、中性洗剤を使用して手洗いしてください。十分にすすいでから絞らずにタオルなどで水気を取り、形を整えて陰干ししてください。洗濯機、乾燥機は絶対に使用しないでください。
- ・インナーパッドカバー、ヘッドサポートカバーは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- ・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。
- ・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

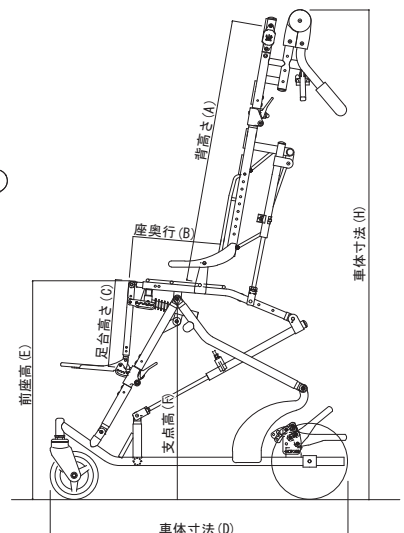
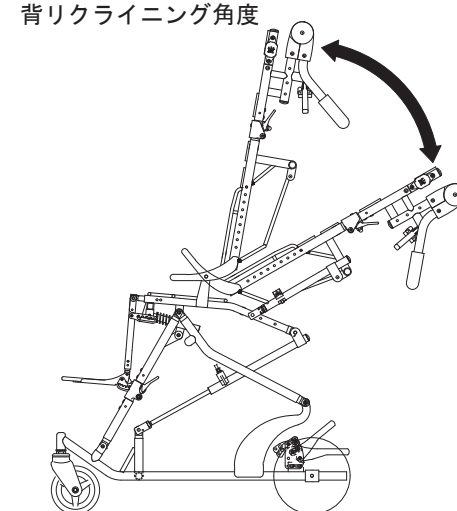
仕様

		Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
背幅/座幅	mm	420/385	420/385	445/410
背高さ(A)	mm	680~740	710~770	780~840
座奥行き(B) ※背スリング面より	mm	180~270	225~315	285~395
足台高さ(C)	mm	200~270	230~320	250~360
車体寸法(W×D×H)	mm	545×785×1265	545×785×1300	570×785×1370
前座高(E) ※ティルト起し時の前座高さ	mm	575	575	580
支点高(F)	mm	525	525	525
折りたたみ寸法(W×D×H)	mm	545×880×495	545×910×475	570×925×485
ティルト角度 ※背スリング面を基準	度	5°~47°	5°~47°	5°~47°
背リクライニング角度	度	95°~145°	95°~145°	95°~145°
エレベーター角度		4段階(約14度ピッチ)		
フットサポート角度		5段階(約14度ピッチ)		
基本重量(シート重量含む) ※アンダートレイを除いた重量	kg	約16.5	約16.6	約17.0
調節スリングシート	材質	ナイロン100%		
シートユニット	材質	ポリエステル100%		
対応身長	cm	約90~110	約110~130	約125~145

ティルト角度



背リクライニング角度



製造・発売元

株式会社 きさく工房

〒811-2126 福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11
TEL 092-932-7600 FAX 092-932-1037
E-mail info@kisakukobo.jp

取り扱い業者・連絡先

2026.1